

鳴海周平の

ぶらり旅

福岡県門司・平尾台編

泊りがけのツアー開催がなかなか難しい昨今。お話会などのイベントで各地を訪ねた際には、現地のスタッフさんと「目帰りで出かけられるツアー」の候補地を下見させていただく機会が多くなりました。

今回ご紹介する福岡県の門司港と平尾台も、そうした候補地のひとつ。かつて神戸、横浜と共に日本三大港として数えられた門司港、無数の岩が羊の群れのように見える羊群原ようぐんばら、天然記念物にもなっている千仏鍾乳洞を訪ねてみました。

門司港レトロ展望室から望む関門海峡。九州と四国を結ぶ関門橋と共に、海底には約780メートルの人道トンネルがあって、徒歩でも15分ほどで下関市へ渡ることができます。



石灰岩が作りだした幻想的な風景が広がる羊群原。南北約6km、東西2kmにわたる広大なカルスト台地が広がっています。

明治時代に開港し、昭和初期まで近代日本の発展を支えた門司港。当時の華やかさを感じさせる趣きある建物や街並みから「門司港レトロ」として人気を集めている地区です。散策を始めると、すぐに迎えてくれるのが門司港限定・バナナマンのお二人。かつて台湾からバナナを大量に輸入していた拠点でもあった

ことから「バナナの叩き売り発祥の地」となったそう、今も定期的に叩き売りの実演がおこなわれています。貿易港として栄えていたため、お洒落な洋食店が建ち並んでいたという当時の門司港。その中の1軒の喫茶店が、余ったカレーをグラタンのようにオープンで焼いてみた



レトロな雰囲気漂う門司港レトロ地区。「モジモジしながら歩かなければならない」という決まりは、特にありません(笑)



「バナナの叩き売り発祥の地」ということで、このようにわかりやすいキャラクターが迎えてくれます。



門司港レトロ地区は、焼きカレーも名物のひとつ。人気のお店がたくさん並んでいます。

ところ、インド人もビックリするほど美味しく仕上がったことから「焼きカレー」ができたと言われています。(インド人の件だけフィクションです…) 31階建の門司港レトロ展望室からは、九州と本州をつなぐ関門橋が見えますが、あまりの近さに、インド人じゃなくてもビックリ！海底にある人道トンネルを通ると、15分ほどで下関に着いてしまうそうです。九州側に建つ和布刈神社も、とても気持ちの良い場所でした。



関門橋の九州側に在る和布刈神社から眺める関門海峡。源平最後の合戦場としても知られる壇ノ浦も望めます。



左上方には、かつて宮本武蔵と佐々木小次郎が闘ったと云われる巖流島が見えています。(わかりづらいので、この辺かなあっているところが、正解ってことで笑)

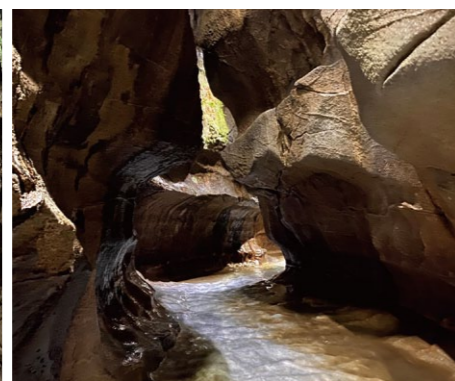
門司港から車で約40分ほど南へ走ると、広大な草原の中に点在する大小の岩が見えてきます。「なんか、牧場みたい！」という感想そのままに、ここは羊の群れが草原で遊んでいるように見えることから、羊群原と呼ばれるところ。石灰岩などの水に溶けやすい岩石が、長い年月をかけて雨水などによって侵食されてできる特殊な地形で、地下の鍾乳洞と共に、独特なエネルギーを感じられる場所になっています。

2015年に訪ねたスペインのモンセラート(ここも奇岩が特殊な場をつくっています)にも似た雰囲気を感じながら、昭和10年に天然記念物に指定されたという千仏鍾乳洞へ。「この鍾乳洞、水の中を漕ぎながら行くんだって。ちょっと暑いから、涼しくなっていいかもね！」などという、甘い考えで入ってはいけない場所だったことは、しばらく進んでから判明しましたが(笑)入り口でサンダルを無料貸し出ししてくれますので、ちょっと冒険したい人にはオススメです。

福岡から日帰りで行ける範囲で、こんな秘境があったことに、インド人じゃなくてもビックリしたなるみんです。



福岡のイベントでいつもお世話になっているマコちゃんと洋子さん。このたびも一緒にいただき、どうもありがとうございました!!



寒いくらい涼しい洞窟内部。流れる水を漕ぎながら進みます。



千仏鍾乳洞の入り口に到着。行って参ります、川口隊長!!